

伊豆沼・内沼自然再生事業 全体構想 概要

目標 豊かな生物多様性と健全な水環境の回復を図り、人と自然が共生する伊豆沼・内沼を目指す。

課題

- 生物多様性の劣化：水鳥の集中と種組成の単純化、富栄養化等にもなう植物種等の減少、外来魚による魚類の食害
- エコトーン（移行帯）の消失
- 水質汚濁と浅底化の進行：水質汚濁の進行と夏季の酸欠、底質の体積と浅底化の進行
- 地域活性化が求められる時代

伊豆沼・内沼自然再生協議会

平成20年 9月に組織化
令和2年 4月時点で構成員数33
個人（専門家を含む）7、団体16、
関係地方公共団体7、関係行政機関3

対象区域

伊豆沼・内沼流域 5,265ha



マガン



クロモ



ゼニタナゴ



環境学習

伊豆沼・内沼における自然再生の基本理念と将来像

◆基本理念

- 自然再生に当たっては、湖沼生態系の保全と回復を第一とする
- 人の活動と自然環境とが調和した二次的自然として望ましい姿を目指す
- 自然環境の保全に十分配慮しながら、環境教育の素材として、また地域活性化の資源として、伊豆沼・内沼のワイズユースを推進する
- 多様な主体が協働しながら一丸となって伊豆沼・内沼の自然再生に取り組む

◆将来像

- 水環境が改善され、1980年（昭和55年）の洪水被害を受ける以前に見られた沈水植物（マツモ、クロモ等）や浮葉植物（ヒルムシロ、ジュンサイ、ヒツジグサ等）など豊かな水生植物群落が広がり、それらを生息環境とするエビ類などが回復した伊豆沼・内沼
- 水鳥・渡り鳥（ガン・カモ類）をはじめとし、在来魚介類（ゼニタナゴなど昆虫類など、多種多様な生物が生息する伊豆沼・内沼
- 貴重な資源を活かし地域内外の人々の体験・交流・産業創出の場として地域活性化に貢献し、周辺の農村環境と共存した湿地環境や水辺の景観が次世代に継承されていく伊豆沼・内沼

第1期の取組・成果

- 生物多様性の保全と再生
- ◆成果：水生植物のうち21種を復元。外来魚防除活動により目標生物の個体数増加。一方、マコモやクロモ等の水生植物は、移行帯が波浪で削れたため回復が厳しい。
- 健全な水環境の回復
- ◆成果：COD、浮遊物質量等の環境基準が未達成。
- ワイズユースと環境学習の推進
- ◆成果：2つのサンクチュアリセンターをリニューアル。

第2期の取組

- 継続する項目
湖内植生の適正管理・沈水植物の復元／湖岸植生の保全／在来生物の増殖と移植・外来生物防除／水環境回復（植物による浄化、浅底化対策等）
- 強化する項目
エコトーン（移行帯）の創出／ワイズユース等による地域活動の体制強化／水鳥と人とが集う水辺づくり